

特集 |

打つ手なしの行きづまり事例が、 当事者研究で変化する

北海道・浦河で、自分を助けるためのツールとして生まれた当事者研究ですが、
とうとう精神科病院、医療観察法病棟、クリニックにも広がり始めました。
しかも最重度で、打つ手なしと思われた行きづまり事例において、
明らかな変化を見せるといいます。

それらを目の当たりにした医療者の皆さんに
どんな経験だったのかを教えてくださいました。

